

## おわりに

インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進において、小・中学校等に在籍する肢体不自由のある子供の学びを充実させることは大きな課題です。国立特別支援教育総合研究所肢体不自由教育班では、第4期中期目標期間（平成28年度～令和2年度）の5年間の研究の方向性として、小・中学校に在籍する肢体不自由児の教育について、現状と課題を明らかにした上で、その専門性向上、及び地域資源を活用した授業改善に関する研究を行うことを主な研究課題として取り組んできました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により研究計画の見直しが必要となり、当初の計画通りに事例研究を進めることができませんでした。それでも、研究協力者の学校で可能な範囲で地域資源を活用した授業改善に関する事例研究を進めました。それぞれの地域や学校においては、本研究で取り組んだ地域資源の活用を参考に、授業改善を進めていただければと思います。

本研究を進めるにあたって、多くの関係者の皆様方にご協力いただきました。深く感謝いたします。特に、事例研究に取り組んでくれた研究協力者の方々をはじめ、ご協力いただいた小学校及び中学校の先生方、子供たちに感謝いたします。

最後に、本報告書をお読みいただき、関係各位の御意見・御批正をいただければ幸甚に存じます。

研究代表者 吉川 知夫